

令和3年度 栄区セーフコミュニティ推進協議会

日時:令和3年7月 14 日(水) 10時から11時まで
場所:栄区役所 新館4階 8号会議室

1 【議題】 今後のセーフコミュニティ推進事業の進め方について	1 頁
2 【報告】 令和2年度栄区セーフコミュニティ事業報告について	3 頁
3 【報告】 セーフコミュニティアンケートの集計結果について	6 頁
4 【報告】 令和2年度の栄区セーフコミュニティ活動について	
(1) こども安全対策分科会	9 頁
(2) スポーツ安全対策分科会	10 頁
(3) 交通安全対策分科会	11 頁
(4) 児童虐待予防対策分科会	12 頁
(5) 高齢者安全対策分科会	13 頁
(6) 災害安全対策分科会	14 頁
(7) 自殺予防対策分科会	15 頁
(8) 防犯対策分科会	16 頁
5 【報告】 令和3年度セーフコミュニティ活動について	17 頁

配布資料

- ・令和3年度 セーフコミュニティ推進協議会・各分科会委員名簿
- ・令和2年度 栄区セーフコミュニティアンケート 集計概要

■栄区セーフコミュニティ推進協議会 委員名簿

No.	役職	氏名	職位
1	会長	富士田 学	栄区長
2	副会長	細田 利明	栄区連合町内会会長、 本郷中央連合町内会自治会会長
3	副会長	松本 光好	栄警察署長
4	副会長	渡辺 又介	栄消防署長
5		横川 恵	豊田連合町内会自治会会長
6		指田 弘	笠間連合町内会自治会会長
7		田中 健次	小菅ヶ谷連合町内会自治会会長、 栄区社会福祉協議会会長
8		山田 直樹	本郷第三連合町内会会長
9		黒木 さち子	上郷西連合町会会長
10		芦川 弘	上郷東連合町会会長
11		本田 桂子	栄区民生委員・児童委員協議会会長
12		野村 武	栄区医師会会長
13		細川 治	横浜栄共済病院院長
14		芝坂 洋子	栄区薬剤師会会長
15		茂木 敏雄	栄歯科医師会会長
16		片岡 喜久江	こども安全対策分科会座長
17		白川 正信	スポーツ安全対策分科会座長
18		輿石 稔	交通安全対策分科会座長
19		宮崎 良子	児童虐待予防対策分科会座長
20		湯瀬 洋子	高齢者安全対策分科会座長
21		毛利 勝男	災害安全対策分科会座長
22		小田原 俊成	自殺予防対策分科会座長
23		持田 忠	防犯対策分科会座長
24		田高 悦子	傷害サーベイランス分科会座長
25	参与	大桑 正貴	栄区議員団
26	参与	輿石 且子	栄区議員団
27	参与	長谷川 えつこ	栄区議員団
28	参与	楠 梨恵子	栄区議員団

今後のセーフコミュニティ推進事業の進め方について

平成22年度から活動している「セーフコミュニティ（以下「SC」）推進事業」について、令和5年度の再々認証取得を目指すためには、令和3年度から資料作成等の準備を開始する必要があることから、令和2年度中に事業を振り返り、地区連合町内会長及び分科会座長の皆様の御意見をお聞きしながら、今後の方針について検討を進めてきました。いただいたご意見を踏まえ、再々認証は目指さず、これまでのSC推進事業による成果を大切にしながら、より発展的な形となるよう進めていきます。

1 国際認証「SC」の概要

地域ぐるみで外傷の予防活動を展開するまちに与えられる国際認証制度です。

考え方	「致命的な事故やケガは、その原因を究明することで予防できる」
認証機関	国際NGO組織「SC認証センター」（本部：スウェーデン）
日本における事務局	一般社団法人 日本SC推進機構（JISC）（本部：大阪市中央区）
有効期間	5年間
認証取得条件	認証センターが定める7つの指標を満たしていること ※申請書及び現地審査により認証機関の審査員が判定
認証都市数	世界で約400都市が認証を取得し日本では13都市が活動中
審査におけるポイント	「既に安全な状態である」のではなく「体系だった方法（PDCAサイクル等）により安全の向上に取り組んでいる」コミュニティであること

2 経緯

平成21年度	栄区でのSC活動準備作業が開始
22年度	SC国際会議（開催：韓国スウォン市）において活動開始を表明
23年度	中間審査
24年度	現地審査実施・認証内定通知の受領
25年度	認証記念式典の開催（10月） → 認証取得
29年度	事前指導（中間審査）
30年度	現地審査（6月）・再認証式典（10月） → 再認証取得

3 現在の状況

(1) 認証の取得と維持に係る経費

SCの認証取得と維持に係る事務経費（各分野別分科会の経費を除く）は、現地審査の年度では1,000万円程度、それ以外の年度では350～700万円程度となっています。

(2) 認知度の推移（区民意識調査及びSCアンケートより）

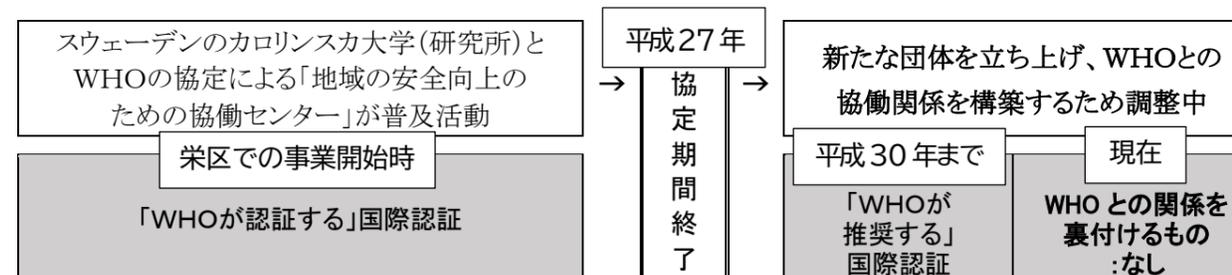
SCについて、「活動に参加したことがある」「活動について知っている」「言葉を知っている・聞いたことがある」と答えた区民は、初めて認知度を調査した平成25年度は11.3%でしたが、28年度に40.9%となりました。29年度以降は35～38%前後で推移しています。

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
11.3%	21.9%	19.9%	40.9%	38.1%	34.8%	37.9%	37.6%

(3) 国内認証都市の状況

認証期間中 (13都市・認証順) ※太字:次回認証を取得しない予定	<ul style="list-style-type: none"> 京都府亀岡市 青森県十和田市 神奈川県厚木市 長野県箕輪町 東京都豊島区 神奈川県横浜市栄区 大阪府松原市 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県久留米市 埼玉県秩父市 鹿児島県鹿児島市 大阪府泉大津市 福島県郡山市 埼玉県さいたま市
認証取得に向けて活動中	山梨県都留市	
認証期間満了	長野県小諸市、埼玉県北本市、滋賀県甲賀市	

(4) SC認証をとりまく状況の変化について



(5) 地域と共に10年間活動を継続して得られた成果

① 地域課題に対する協働体制の確立

分科会により、地域及び関係機関と意見交換や分担をしながら課題に取り組む体制ができました。

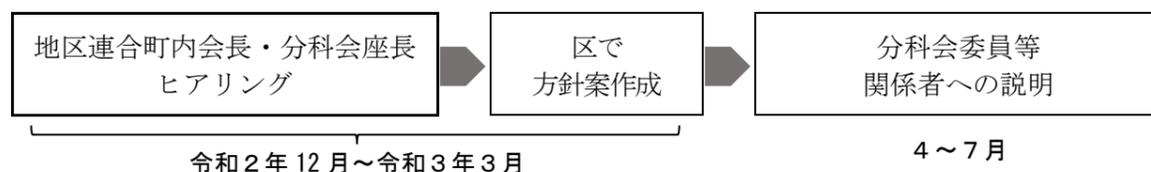
② データによる事業見直し手法の導入

③ 安全・安心なまちというブランドの確立

「栄区は安全・安心なまちである」と感じている区民: **90.2%** (令和2年度栄区SCアンケート)

4 調整状況

地区連合町内会長及びS Cの分科会の代表者である座長に対して、認証を取得する場合・しない場合それぞれの想定されるメリット等を説明しヒアリングを行いました。これまでの取組に対しては評価をしていただいた上で、認証を取得せず取組を発展させていくという方向性についても、全ての地区連合町内会長及び座長からご理解をいただきました。



(1) 地区連合町内会長

ヒアリングにおいて以下のご意見をいただきました。

◆要旨

- ・栄区でのS Cは総じて良い取組であることは間違いないが、事業を見直し、今後は区独自の体制で進めていく方が良いと感じている。
- ・S Cは市で唯一栄区が認証されており、区の誇りだと思っている。一方でWHOとの関係等課題があることも理解した。
- ・認証を継続するかについては最終的に区の判断。地域に対しはっきりと方針を示してほしい。
- ・栄区独自の枠組みを作り上げて、安心して暮らせるまちづくりを続けていくということであれば、地域も賛同するだろう。
- ・国際認証であるS Cは栄区にとって目玉。認証を取得しないならそれに代わるような事業にしてほしい。
- ・見守りなど、今地域の課題となっていることへの取組に力を入れたほうが良い。
- ・新しい事業にするのであれば、分かりやすく、地域が取り組みやすいものにしてほしい。

(2) 分科会座長

ヒアリングにおいて以下のご意見をいただきました。

◆要旨

- ・団体と行政・関係機関の連携のために、S Cが果たした役割は大きい。
- ・良い取組だが、費用面で負担が大きいということであれば見直しの時期なのかもしれない。
- ・WHOの認証でなくなったのであれば、状況が変わってくると思う。
- ・今後も区役所がしっかり団体と関わって活動を進めるなら認証にはこだわらない。
- ・事業を改めた方が区民のためになるのであれば、再々認証を取得しなくても構わない。
- ・事業を改めるのであれば、現在の分科会の枠にこだわらず、栄区で今本当に必要なものを見つめ直して取り組んでいくべき。
- ・区役所職員や地域の活動者が交替しても活動が続いていく仕組みづくりをしてほしい。

5 方針

地区連合町内会長及び分科会座長の皆様からヒアリングでいただいたご意見を踏まえ、これまでのS C推進事業による成果を大切にしながら、より発展的な形となるよう、以下の内容を軸に進めます。具体的な内容や事業形態については、令和3～4年度にかけて、推進協議会や分科会の皆様を中心とした関係者に意見をうかがいながら検討していきます。

- ① 再々認証取得は目指さず、これまでの積み重ねを活かした独自の形態での「安全・安心なまちづくり」の推進
- ② 地域・区役所・関係機関との協働体制の継続
- ③ 「セーフコミュニティ」に代わる「安全・安心なまち栄」をPRするためのスローガンや事業名称の設定

また、令和5年の認証期間満了まではS C認証都市としての活動を継続します。

6 今後のスケジュール

本日のS C推進協議会后、地域の皆様への御説明を進めるとともに、新しい事業形態に向けた検討を始めます。

7月14日	S C推進協議会
推進協議会終了後～	分科会委員所属団体等への方針説明 委嘱委員の団体、区内学校・公共施設等
調整中	区連会に方針決定を報告（地区定例会への報告を予定）
令和3～4年度	新しい事業形態に向けた検討・調整 各分科会で活動方針を検討
令和5年度	10月で認証満了 → 新しい事業形態での事業開始

継続
セーフコミュニティの活動は
認証期間満了まで

【担当】区政推進課地域力推進担当 永松、高橋、安井
電話：894-8330 FAX：894-9127
Eメール：sa-chiryoku@city.yokohama.jp

令和2年度栄区セーフコミュニティ事業報告について

1 概要

令和2年度の栄区セーフコミュニティ活動については以下の通り実施しました。

内容	時期	開催形式
推進協議会の開催	5月	書面
傷害サーベイランス分科会の開催	3月	会場および オンライン
他認証都市での審査等参加（鹿児島、都留市）	随時	オンライン
セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク研修・定例会への参加	8月・3月	オンライン
セーフコミュニティアンケートの実施	11月	
各分科会の開催	随時	

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さかえセーフコミュニティフォーラム、栄区民まつりは中止となりました。

2 プロモーション

(1) 調査の結果認知度が低かった現役世代と居住歴の浅い層に訴求するための取組

ア データで取組の効果をPRするポスターの掲示（公共施設等）

イ 区役所戸籍課にて、栄区への転入者に対しリーフレットを配布

(2) 広く一般にPRするための取組

ア 広報よこはま栄区版（コラム：隔月掲載 特集：10月号）

イ 啓発品の作成・配布（ホイッスル付きライトペン、タオル、反射材等）

ウ PR動画の作成



ホイッスル付きライトペン



タオル

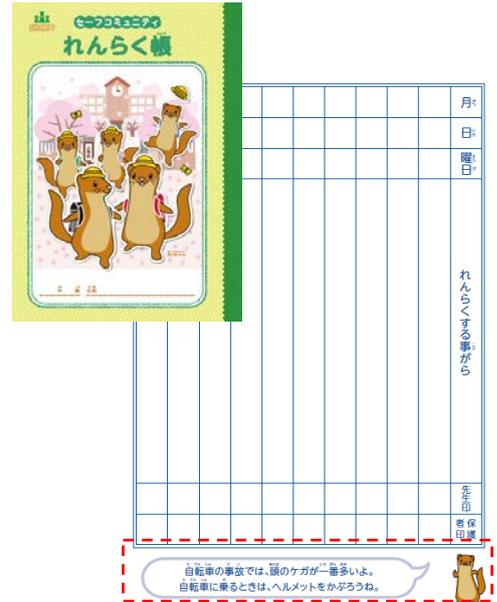


反射材

3 分科会の同士の連携した取組について

(1) セーフコミュニティ連絡帳

主体	こども安全対策分科会
概要	一般的な連絡帳の内容に加え、こども安全対策分科会で普及に取り組むKYT（危険予知トレーニング）のイラストや、セーフコミュニティの取組分野に関連した子ども向けの記事やコラムを掲載した連絡帳を制作 配布対象者：区内市立小学校の生徒全員 配布時期：令和3年1月
連携先	全ての分科会
連携した内容	通学時の安全などの記事内容への協力 コラムの内容を各分科会から提供



↑ 欄外に頁ごとに異なる標語が載っています

(2) 栄防災ノート

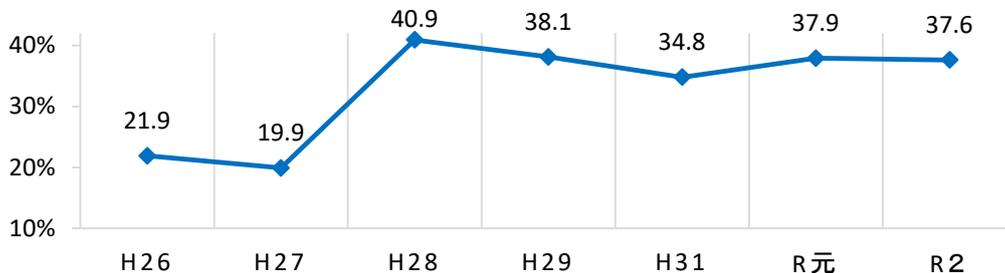
主体	災害安全対策分科会
概要	防災に役立つ情報の他、利用者が自ら書き込んでいくことで、備蓄や家具の固定、避難場所の確認等災害時の備えができる冊子を作成し配布を開始 配布対象者：広く一般区民 配布方法：地域防災拠点で配布、区内各所に配架 等
連携先	高齢者安全対策分科会
連携した内容	主な対象を高齢者に設定していることから、高齢者が読みやすい記事内容やレイアウトになるよう助言を受ける。



4 認知度について

11月に実施したセーフコミュニティアンケートにおいて、セーフコミュニティの認知度は37.6%と前年度の37.9%から横ばいでした。

◆〈参考〉セーフコミュニティの認知度の推移



5 傷害サーベイランス分科会委員からの助言について

学識経験者等から構成される傷害サーベイランス分科会の委員より、活動に対し以下のような助言がありましたので報告します。(主なものを抜粋)

- ・分科会間の連携事例であるＳＣ連絡帳について、小学生の保護者は比較的若い層だと思われるので、その層へのＰＲのため、配布する時にＳＣを意識づける工夫があると良いのではないかと感じた。
- ・ＳＣアンケートの回答から自殺に対する認識が良い方に変ってきていることも実感できた。一方で、自殺企図者への理解が十分でない人も３割程度固定的に存在する。こういった偏見をどうなくしていくかは課題である。
- ・コロナ禍の中で、若い女性の自殺企図者が増えている。今後は自殺だけではなく、それに通じる貧困などの課題に対し、横の繋がりを強化していくことを意識したまちづくりを期待したい。

令和2年度 セーフコミュニティアンケート結果について

令和2年11月に実施した栄区セーフコミュニティアンケート調査について、集計結果がまとまりましたので概要をお知らせいたします。調査実施にあたり周知等へご協力いただきありがとうございました。

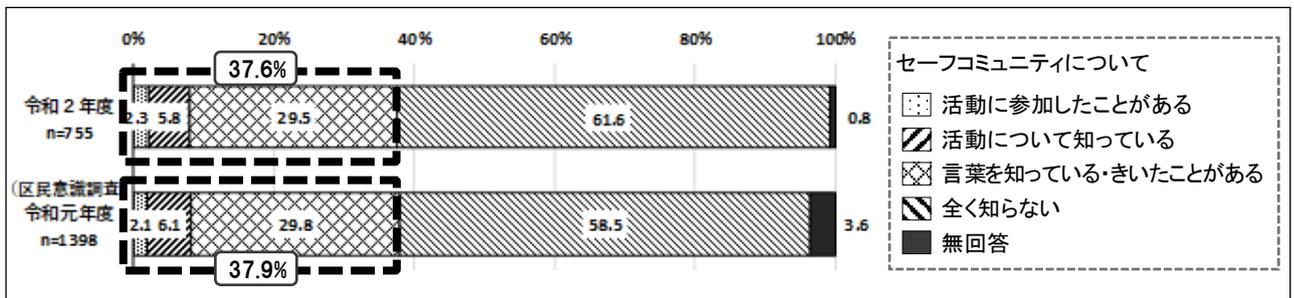
1 調査の概要

- 調査対象：栄区内に居住する20歳以上の方1,500人（住民基本台帳からの無作為抽出）
- 調査期間：令和2年11月4日（水）～25日（水）
- 調査方法：郵送配布・郵送回収 ■ 回答数：755（回答率50.3%）
- 報告書：栄区HPに掲載します。（「栄区 セーフコミュニティアンケート」で検索）
<https://www.city.yokohama.lg.jp/sakae/kusei/tokei/chosa/scanke-to.html>

2 集計結果概要

(1) セーフコミュニティの認知度

「活動に参加したことがある」、「活動について知っている」、「言葉を知っている・きいたことがある」という回答を合計した **認知度は37.6%** でした。昨年度の栄区民意調査の37.9%との差は0.3ポイントで、ほぼ横ばいという結果でした。

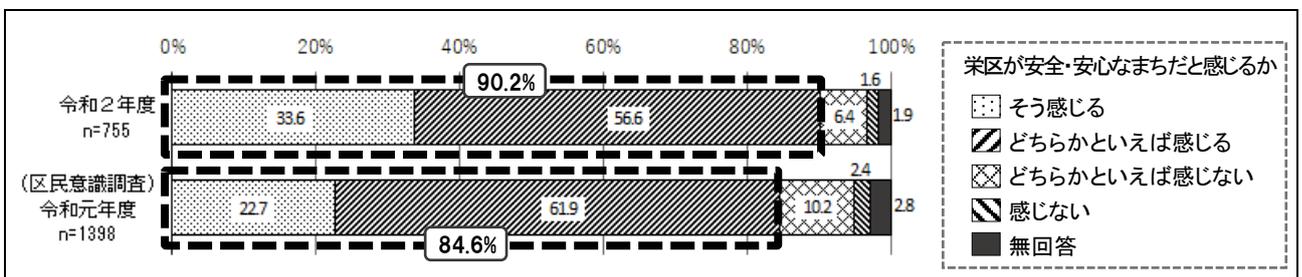


(参考：認知度の推移)

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2
11.3%	21.9%	19.9%	40.9%	38.1%	34.8%	37.9%	37.6%

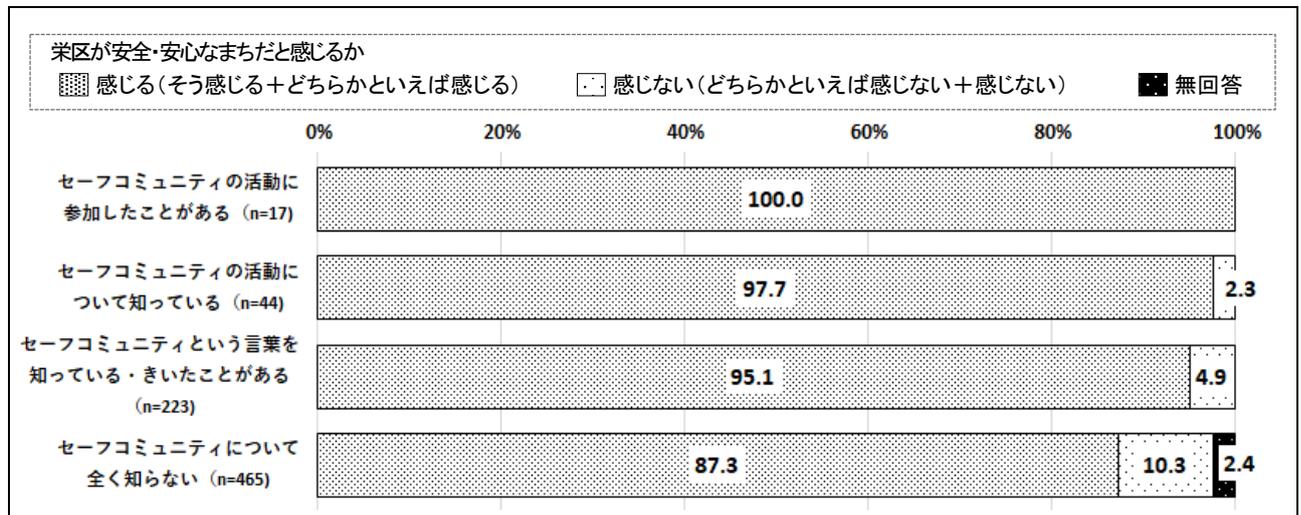
(2-1) 「安全・安心なまち」だという実感

栄区が安全・安心なまちだと感じるかどうかについて「そう感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した方の合計は **90.2%** となり、昨年度の栄区民意調査の84.6%を5.6ポイント上回る結果となりました。



(2-2) 認知度と「安全・安心なまち」だという実感との相関

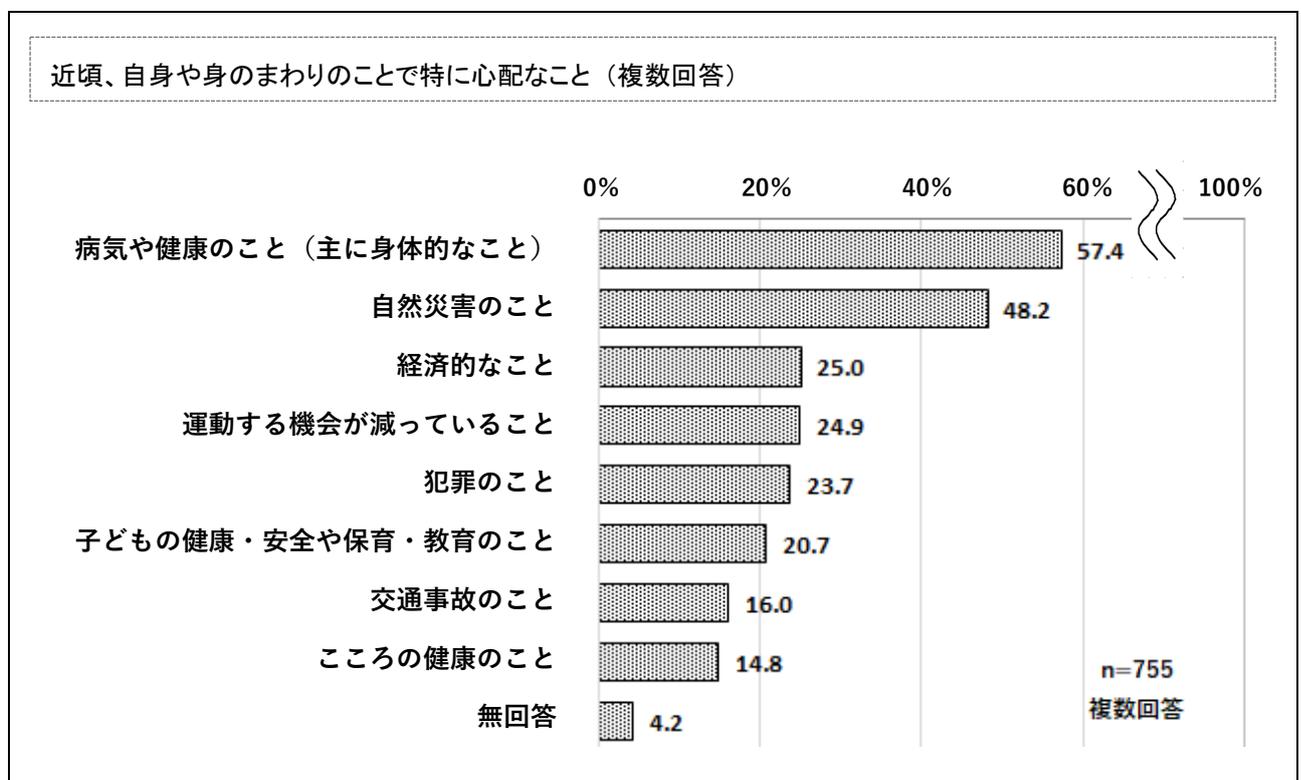
「セーフコミュニティについて全く知らない」方よりも、何らかの形でセーフコミュニティを知っているの方が、栄区は安全・安心なまちだと感じている割合が高いという結果になりました。



(3) 身のまわりの心配なこと

最も多かったのは「病気や健康のこと」で、約6割の方が心配なこととして挙げました。

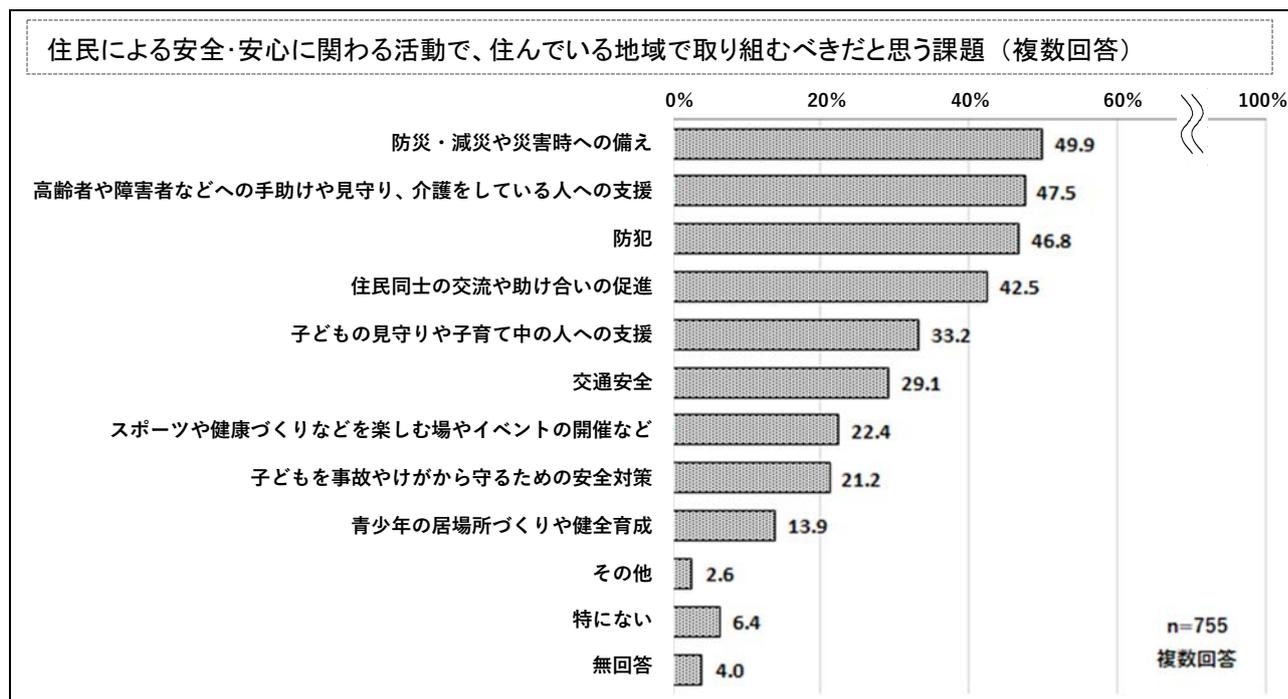
その他には、約半分に当たる48.2%の方が「自然災害のこと」、約4分の1の方が「経済的なこと」「運動する機会が減っていること」「犯罪のこと」が心配であると回答しました。



次頁に続きます

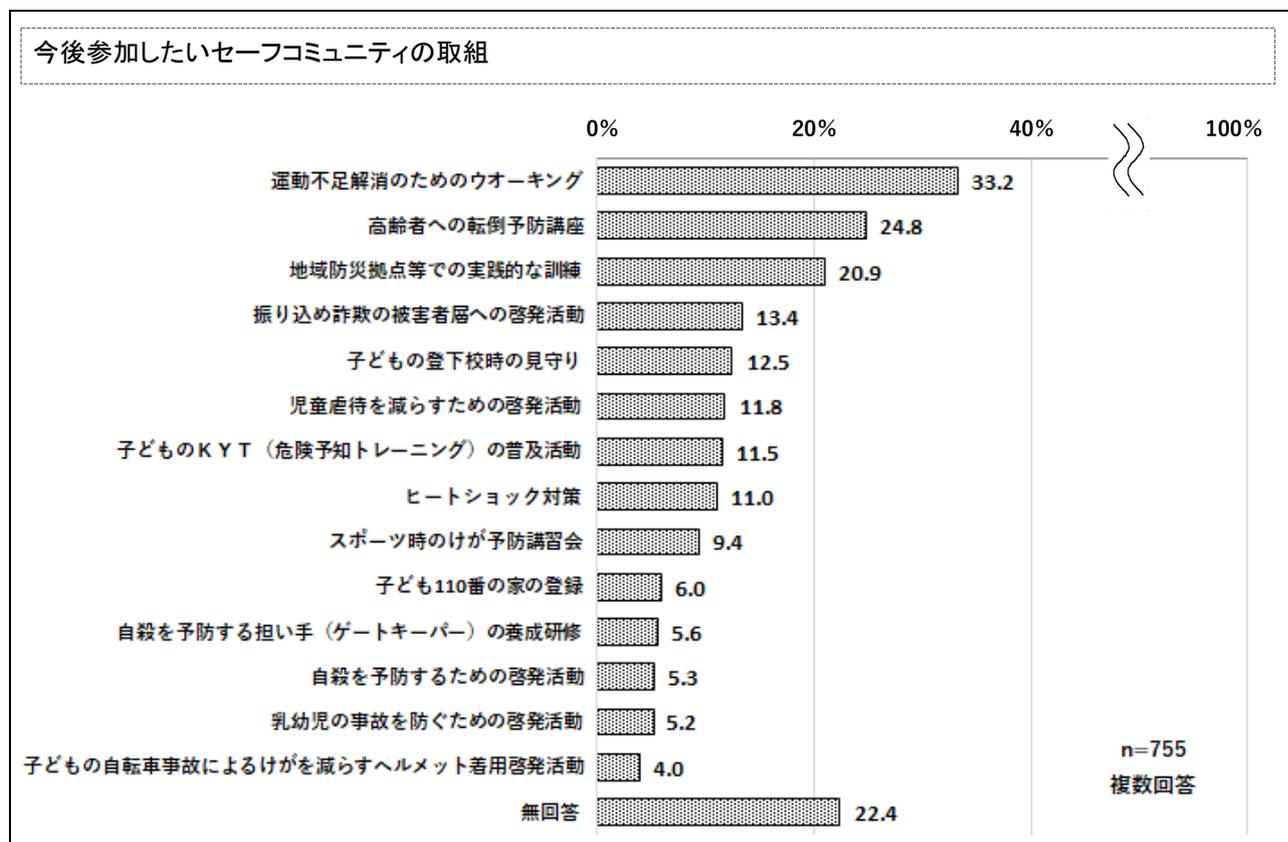
(4) 地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動

「防災・減災や災害時への備え」(49.9%)、「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」(47.5%)、「防犯」(46.8%)を約半数の方が挙げました。



(5) 参加したいセーフコミュニティの取組

「運動不足解消のためのウォーキング」(33.2%)が最も多く、次いで「高齢者への転倒予防講座」(24.8%)、「地域防災拠点等での実践的な訓練」(20.9%)の順に参加意向が高いという結果になりました。



令和2年度栄区セーフコミュニティ分科会活動について（報告）

こども安全対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	養育者への啓発	乳幼児期の子どもへの救急搬送件数の減少
2	子どもへの注意喚起（KYTの実施）	学齢期の子どもへの事故件数の減少
3	地域の住民による見守り	「安全・安心な地域である」と感じる子どもの増加

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	11月4日	本年度の取組予定、セーフコミュニティ連絡帳の内容検討
第2回	3月1日 (書面開催)	本年度の取組報告、セーフコミュニティ連絡帳の完成報告、栄区セーフコミュニティアンケートの結果共有、コロナ禍での活動に関する意見交換

3 令和2年度の分科会による主な活動

- 養育者への啓発
保育施設・地域子育て支援拠点やこんにちは赤ちゃん訪問における、事故予防クリアファイル等の配布。事故予防に関する養育者向けアンケートを実施。市立保育所における訪問運動指導を実施。
- 子どもへの注意喚起
イベントやキッズクラブなどの放課後施設における、子どもたちへのKYT（危険予知トレーニング）を実施。
- 地域の住民による見守り
地域住民や分科会委員を中心とした、「こども110番の家」の普及啓発や登下校の見守り活動を実施。小・中学生を対象にした安全・安心な地域づくりに関するアンケートを実施。小学生・保護者に向けた栄区オリジナル連絡帳を作成・配付。

スポーツ安全対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	けが予防講習会の開催	運動競技事故による救急搬送件数の減少
2	ウォーキングの推進	運動競技事故による救急搬送件数の減少

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	7月20日開催	令和2年度分科会の活動内容について、分科会だよりの発行について
第2回	3月 (書面開催)	新型コロナウイルス流行のため、書面開催

3 令和2年度の分科会による主な活動

- ・広報よこはま7月号にて、運動不足解消と体幹強化につながるストレッチを紹介しました。
- ・ウォーキング前の準備運動や、ソーシャルディスタンス保持等を周知するポスターを作成し、掲示・配布しました。
- ・「ソフトテニス けが予防のための講習会」を金井公園で開催しました。
開催月日：令和2年12月9日（水）
講師：慶應義塾大学スポーツ医学研究センター研究員
参加者：13名
- ・「アンケートの実施」区内で身体を動かす活動の指導者・支援者として活動している方を対象に、過去3年間に経験した有害事象やヒヤリハットについてアンケートを実施し、108名から回答を得ました。なお、アンケート設問設計提案と、回答の分析は、慶應義塾大学スポーツ医学研究センターに委託しました。

交通安全対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	各季および強化月間の交通安全運動の実施	年間を通して効果的な交通安全啓発の機会をつくる。
2	区内14小学校スクールゾーン対策協議会との連携	学校、地域、行政機関の連携により危険箇所の改善にあたる。
3	子どもや高齢者を対象にした交通安全啓発活動の実施	子どもや高齢者の交通安全意識を高め、交通事故件数を減らす。

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	4月 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> 第2回分科会までの交通安全活動計画 区内の交通事故発生状況 ・ 令和2年度の取組方針、取組内容
第2回	9月16日開催	<ul style="list-style-type: none"> 第3回分科会までの交通安全活動計画 区内の交通事故発生状況 ・ 令和2年度の具体的取組 令和元年度保育園児の自転車用ヘルメット着用率にかかわる調査結果 令和元年度スクールゾーン対策協議会で出された要望内容と対応
第3回	11月13日開催	<ul style="list-style-type: none"> 第4回幹事会までの交通安全活動計画 キャンペーン時の配布啓発物品 区内の交通事故発生状況 ・ 高齢者向けの交通安全教室の様子 児童の自転車用ヘルメット着用率調査計画
第4回	2月 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> 翌年度4月までの交通安全活動計画 ・ 区内の交通事故発生状況 保育園児の自転車用ヘルメット着用率にかかわる調査計画 児童の自転車用ヘルメット着用率アンケート結果 区内市立小学校、保育園へ配布する自転車ヘルメット着用啓発チラシの内容

3 令和2年度の分科会による主な活動

- ・ コロナ禍に配慮しての交通安全活動の実施
- ・ 区内の交通事故状況の紹介、啓発内容の情報共有
- ・ 関係行政機関（警察、土木事務所、区役所）の合同打合せを経てのスクールゾーン要望内容対応
- ・ 幼児、児童の自転車乗車時のヘルメット着用率調査実施
- ・ 自転車乗車時のヘルメット着用啓発チラシ作成の紹介
- ・ 令和元年度高齢者交通安全教室の概要紹介

児童虐待予防対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	さかえっ子の笑顔ひろげ隊活動周知	子育て世帯と接するすべての方々が、養育者と子どもを温かく見守り、安心して子育てができる地域づくりを推進をする。
2	いのちの授業	思春期の子どもたちが、胎児の成長、乳児とお母さんとの交流を通じ命の大切さ、他人を思いやる心などを育む。
3	専門家による早期対応	児童虐待による死亡事例・重篤事例の予防。児童虐待対応件数、要保護児童数の減少。

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	8月27日	今年度の活動について、関係機関向けの啓発方法について
第2回	10月27日	次年度以降も感染症の動向が不透明な中、いのちの授業をどのように実施していくか
第3回	12月22日	いのちの授業の取り組みの方向性について、虐待予防と健全育成について
第4回	3月2日	3年度の取り組みについて、いのちの授業のためのアンケート実施について

3 令和2年度の分科会による主な活動

関係機関（民生委員児童委員、こんにちは赤ちゃん訪問員、小中学校長、小中学校専任等）向けの周知を中心に行い、虐待以外の会議等でも啓発物品の配布を行った。
 例年実施していた、育児教室での赤ちゃんふれあい体験は感染症予防への配慮から中止、いのちの授業も中学校の年間カリキュラムの変更、ふれあい体験の実施不可の状況を鑑み中止とした。
 今後コロナに限らず新型コロナウイルス発生時にも実施できるコンパクト版のいのちの授業の実施方法について検討した。

高齢者安全対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	転倒予防に資する取組	高齢者の転倒・転落件数、割合の減少
2	ヒートショック対策	高齢者の不慮の溺死及び溺水による死者数の減少

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	コロナ感染防止のため休止	
第2回	10月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防に関するアンケート集計結果報告 ・転倒予防フォローアップ研修会を受けた後のアンケート集計結果報告 ・今年度の取組について ・転倒予防DVD製作について
第3回	2月10日 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒・転落予防 令和2年度実施評価、令和3年度取組について ・ヒートショック対策 令和2年度実施評価、令和3年度取組について ・令和3年度高齢者安全対策分科会スケジュールについて

3 令和2年度の分科会による主な活動

1 転倒予防の取組

- ・地域のリーダー向け転倒予防体操研修会開催
- ・筋トレ自主会・元気づくりステーション・地域サロン（一部）の取組実績把握
- ・チラシ・リーフレットを活用した啓発
- ・転倒予防体操DVDの作成 YouTube配信
- ・関係機関から転倒・転落予防について啓発

2 ヒートショック対策の取組

- ・ポスター掲示依頼
自治会掲示板、栄区内医院・薬局、栄区社協、地域ケアプラザ、栄消防署・消防署出張所、栄区役所
- ・Twitterによる情報発信
栄区Twitterアカウントにてヒートショック対策について発信（12月、1月）。
- ・関係機関からヒートショック対策について情報発信
シニアクラブ広報、栄消防より栄区広報11月号コラム、ケアプラザ（3館）や消防、区主催の講座等で啓発

災害安全対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	自助の取組の促進	地震災害による死傷者数の抑止
2	実践的、機能的な避難所の追及	避難者が避難生活をストレスなく送るための避難所運営の実施 災害関連死者数の抑止
3	災害時要援護者支援の取組拡大	支援の方法・支援者の啓発 災害関連死者数の抑止

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	5月 (書面開催)	令和元年度地域防災拠点訓練実施状況について
第2回	12月 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度災害安全対策分科会活動について 令和2年度地域防災拠点訓練実施状況について

3 令和2年度の分科会による主な活動

- 家具転倒防止対策助成事業及び耐震補強についてチラシを使用した広報を行いました。
(区役所窓口、大船駅PRボックス、栄消防署の防災訪問、総務課防災担当の出前講座を通じて配布)
- 家庭での災害の備えに関するヒントや避難行動の考え方、災害時情報収集方法などを確認しながら書き込みができる「栄防災ノート」を作成・配布しました。
 - 規格：A5サイズ、フルカラー、8000部印刷
 - 配布について：令和3年1月区連会でご紹介し、区役所、区内施設、地域防災拠点運営委員会で配布
- 5か年計画に基づいた訓練項目の設定に関する提案を、地域防災拠点運営委員会連絡協議会に向けて行いました。
- 災害時における各地域での要援護者支援の取組が進むよう、下記取組を実施しました。
 - 栄区内小中学校長に対して、概ね3教室を確保できるように依頼しました。
 - 災害時要援護者避難支援訓練を促進するため、自治会・町内会に補助を行いました。
 - 要援護者支援をテーマとした出前講座の実施や、リーフレット「災害時要援護者支援ガイド」の配付、希望のあった自治会町内会への要援護者名簿の提供などにより、支援の取組を推進しました。

自殺予防対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	啓発活動の展開	自殺者数、自殺死亡率の抑制
2	ハートフルサポーター	支援機関へつながる件数の増加
3	リスク者への支援強化	自殺者数、自殺死亡率の抑制

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	9月 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄区自殺予防対策の取組体系について ・ 令和2年度栄区の自殺予防対策の取組

3 令和2年度の分科会による主な活動

- 自殺予防啓発
 - ・ 図書館企画展を実施（9月）
アルツハイマー、がん、結核等、要因の上位となっている「健康」に関するテーマとあわせて実施
 - ・ 相談窓口の広報
相談窓口が掲載されているリーフレットやカードを配架
- 講演会、研修、ネットワーク
 - ・ ハートフルサポーター育成研修を、区職員を対象に開催（10月）
講師：長見英知氏（湘南精神保健福祉士事務所所長）
 - ・ ハートフルサポーター育成研修を、区民生委員児童委員を対象に企画したが、感染症拡大防止のため中止
 - ・ 警察・消防・病院との連携会議の開催（12月）
 - ・ 生活困窮者に関するネットワーク会議は感染症拡大防止のため中止
- リスク者対応
 - ・ 区内のメンタルヘルス支援者相互のスキルアップとネットワークづくりを主眼とした取組として、メンタルヘルス支援ネットワークによる研修を企画したが、感染症拡大防止のため中止
 - ・ リスク者向けリーフレットとパンフレット、カードを活用した情報提供は、感染症拡大防止のため一部（区役所内トイレへの配架）中止

防犯対策分科会

1 分科会の取組内容

	取組	目的
1	振り込め詐欺の被害者層への啓発実施	振り込め詐欺の認知件数、被害金額の減少

2 令和2年度の分科会開催状況

	日程	内容
第1回	8月19日開催	<ul style="list-style-type: none">・振り込め詐欺防止簡易型自動録音機「録音チュー」の配布について・合同パトロールについて・振り込め詐欺に関するアンケートについて（予定）・啓発物品作成について（防犯カメラ作動中ステッカー）
第2回	2月 （書面開催）	<ul style="list-style-type: none">・合同パトロールについて（報告）・振り込め詐欺に関するアンケートの実施について（予定）

3 令和2年度の分科会による主な活動

- ・自治会・町内会及び民生委員に協力依頼による、簡易型自動録音機「録音チュー」の配布。
- ・啓発物品として、防犯カメラ作動中ステッカー及び自治会町内会用に抗菌処理を施した回覧板を作成。
- ・地域と区役所が連携した防犯パトロールの実施。
- ・防犯情報メール登録を促進するため広報よこはま、転入者セットに掲載。

令和3年度栄区セーフコミュニティ事業計画について

令和3年度については以下のように計画しています。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止等の事由から、実施時期や内容をやむを得ず変更する場合があります。

1 概要

時期	内容	備考
7月14日	栄区セーフコミュニティ推進協議会	
9月、3月（予定）	傷害サーベイランス分科会	学識経験者を中心とした委員による活動への助言等
10月	栄図書館展	図書館でのパネル展示
10月21日	さかえセーフコミュニティフォーラム	※下記2を参照
年間を通じて 行う取組	各分野別分科会の活動	-
	分科会同士の連携した取組の検討（継続）	※下記3を参照
	プロモーション	※下記4を参照
	セーフコミュニティ推進自治体ネットワークにおける他認証都市との交流	令和3年度の審査等 現地審査：都留市、厚木市、秩父市

※区民まつりは規模縮小のため出展なし

2 さかえセーフコミュニティフォーラムについて

栄区では、認証を取得した10月を毎年「セーフコミュニティ推進月間」とし、PRの強化等、安心・安全の取組を盛り上げていく重点期間としています。今年度はその看板となる事業として、10月21日（木）に「さかえセーフコミュニティフォーラム」を開催します。

日時：10月21日（木）14時～16時

場所：栄区民文化センター リリスホール（座席数312名）

※感染症対策の為、使用は半数の席とします。

内容：有識者または活動者による講演等

対象：セーフコミュニティ推進協議会委員、分科会関係者

地域で安全・安心なまちづくりのための取組をしている方、したいと考えている方

3 分科会同士の連携した取組の検討（継続）

前回（平成30年）の現地審査における審査員からの指摘事項に基づき、対象者が重複している分科会等について実施しました。令和3年度も引き続き、複数の分科会が連携した取組を検討していきます。

4 プロモーション

啓発グッズの作成やタウン誌による広報、PR動画を活用したプロモーション等を予定しています。また、例年実施している図書館展でのPRや区の媒体を活用したPRについても継続します。広報よこはま（栄区版）では、コラム（隔月掲載）や特集（10月号予定）を通じ区民が安全安心な取り組みを身近な自分の暮らしに繋がるものとして捉えることができるよう、記事の作成に工夫をしていきます。

また、自治会・町内会等関係団体への啓発品を活用した広報協力依頼も検討しながら、様々な機会を通じて「安全・安心なまち さかえ」のPRを行います。